

【学校教育活動の“重点目標”及び“基本方針”】

求める生徒像1 確かな学びを培う ～「学ぶ力」育成プログラムに基づく取組の充実を図る～

- (1) 学習指導(授業方法)の充実や工夫を図り、「わかる・できる・楽しい授業」の実現に努める。課題探究学習や自己評価表等を活用した取組の充実を図るとともに小グループによる話し合いを効果的に活用した学び合いの指導の充実を図る。
- (2) 学びを支える環境づくりを推進し、学びの質を高める。
- (3) 予復習の習慣化に取り組みなど、生徒一人一人の自己管理能力を高めるとともに学校と家庭が一体となった「習慣作り」「環境作り」に努める。

求める生徒像2 豊かな心を育む ～個性や違いを認め、互いを尊重する活動の充実を図る～

- (1) 特別の教科道徳の時間の充実を図るとともに、連続性や系統性を重視した指導を行う。
- (2) 校内学びの支援委員会等を活用し特別な支援を必要とする生徒への適切な指導を行うとともに特別支援学級と通常の学級との交流教育の充実を図る。
- (3) 学校行事や学級や委員会等での活動を通して自己肯定感や自己有用感を養うとともに、生徒一人一人の活躍の場所を作り、ボランティア精神をもたせ、自尊感情を育てる。また、周囲への感謝の気持ちを忘れず、学級・学年集団として質の高まりと充実を目指す。
- (4) 新たな不登校生徒を生まないための未然防止、早期対応の取組の充実を図る。
- (5) 自分の生き方や進路について考える進路探求学習の充実を図る。

求める生徒像3 命を守る ～「傾聴」を意識した取組の充実を図る～

- (1) 命を大切に指導の徹底を図る。
- (2) 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応に努めるとともに、「傾聴」を心がけた教育相談等の充実を図る。
- (3) 安全、安心な学校づくりのため、全校教職員による生徒一人一人の見守りを充実させ、学校事故の未然防止に努める。
- (4) 「健やかな体」育成プログラムに基づき、健康教育や食育を推進し、生活習慣の改善とともに体力の向上を図る。

※上記の実現には、日常の指導に当たる教職員自身の心身が健全であることは必要不可欠であるので、「働き方改革」の具体的取組を推進する。

自己評価に対する学校関係者評価

自己評価結果(達成状況)～A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する
学校関係者評価結果(適切さ)～A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切

AとBの境界は3.25

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
求める生徒像1	1 「わかる・できる・楽しい授業」の実現のために、学習指導(授業方法)の充実や工夫を図っている。	A→A 3.25	約9割の生徒が授業に肯定的。小集団での話し合い活動も肯定的な意見が約9割であることから、今後も対話的・協働的な授業づくりを継続する	A	A
	2 生徒一人一人の自己管理能力を高めるとともに家庭学習定着のための取組の充実を図っている。	B→B 2.96	昨年度より「予習の習慣化」から「自己調整力」へ重点を変え、今年度からは端末を使って家庭学習記録をつけている。来年度も「さっぼろっ子『学び』のススメ」を活用した学校・家庭が一体となった学習習慣作りの推進に努めていく	A	A
学校関係者評価委員による意見	小集団の取組は効果を上げており評価できる。引き続き継続した取組を期待したい。一昨年からの流れからも改善が認められる。 自己調整力を育むにあたり、コーチングからファシリエートの流れを期待したい。				
求める生徒像2	3 学校教育全体において道徳教育の充実と改善を図っている。	B→B 3.07	今年度の全校道徳は「あすチャレ！」よりバラスポーツの講師をお招きして実施し、生徒にも高評価だった。日常的な道徳教育にも力を入れていく	A	A
	4 校内学びの支援委員会等を活用し特別な支援を必要とする生徒への適切な指導を行っている。	A→B 3.14	今年度から週一回の学びの支援委員会といじめ対策委員会を併催し、細やかに支援生徒の情報を共有した。情報共有の内容や方法を工夫してより効率的な運営をしながら今後も組織的に対応していく。	A	A
	5 特別支援学級と通常の学級との交流教育の充実を図っている。	B→B 3.11	特別支援学級生徒の希望に応じた交流授業参加を円滑に行った。情報伝達の時差が出ないように更に意識し、支援学級生徒と保護者の希望を大切にしながら今後も継続していく。	A	A
	6 学校行事や生徒会活動等を通して自己肯定感や、自尊感情を育てている。	A→A 3.71	生徒、教師ともに肯定的意見が更に上昇。保護者からも高評価を得ている。生徒の行事への満足感が高いことから、生徒の意見を大切にしていく。	A	A
	7 新たな不登校生徒を生まないための取組の充実を図っている。	B→B 3.00	不登校の原因が学校に起因していない場合、改善の難しさを感じているが、担任のみならず、学年や学校全体で組織的に対応していく。	B	A
	8 自分の生き方や進路について考える進路探求学習の充実を図っている。	A→A 3.29	道徳や総合的な学習を中心として、進路探求学習の充実を深めていく。小中一貫した教育における交流を通して、小学校からのキャリア教育のつながりも大切にしたい。	A	A
	9 全教職員の共通理解と指導のもと、同一歩調で指導にあたるように努めている。	B→B 3.21	学級学年を基本としつつも、委員会や部活動等、多くの教職員が生徒指導にあたることから、教職員間のコミュニケーションを大切に、情報管理を徹底しながら、今年度と同様に素早く情報共有を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	小集団(グループ)で自分の意見をしっかりと述べていることは大変素晴らしい傾向である。道徳に対する先生方の授業構築の難しさは十分理解できる。是非今後も頑張っていたいただきたい。不登校対策は個に応じた対応が求められるが、先生方が努力している様子が伝わってくる。今後も継続して欲しい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
求める生徒像 3	10 いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。	A→A 3.64	「いじめ防止基本方針」を今年度更新。年度当初に学校長より生徒へも説明。いじめ案件があった場合のその後の見守りを徹底している。	A	A
	11 「傾聴」を心がけた教育相談等の充実を図っている。	A→A 3.43	すべての教職員が生徒の小さな変化に気を配り、一人一人に寄り添う相談活動を大切に、保護者と連携して生徒を見守り育んでいく。	A	A
	12 全校教職員による生徒一人一人の見守りを充実させ、学校事故の未然防止に努めている。	B→A 3.39	日常的な教師の見守りや、様々な教育活動を通じた自他の命を尊重する指導を今後も継続していく。	A	A
	13 健康教育や食育を推進し、生活習慣の改善とともに体力の向上を図っている。	A→A 3.61	栄養教諭による給食時間の放送を厚生委員会が引継ぎ、食育の推進を図り効果を得ている。今後も保健体育の授業等と併せて充実させていく。	A	A
学校関係者 評価委員 による意見	シャボテンログを効果的に使い、子どもの声の聴き取りができています。健康教育に関しては、インフルエンザ等による学級閉鎖が続いたが、コロナ禍の影響により免疫を蓄えられていないためと考えられる。学校としては十分な対応をとっていると推察できる。				
その他 4	14 学校だよりの発行、ホームページなどの充実を図り、積極的な広報活動を行っている。	A→A 3.46	保護者間連絡システム「すぐーる」の運用が定着。よりきめ細かな情報発信を保護者へ行った。学校HPの更新が昨年より減ってしまった。次年度改善したい。	B	A
	15 授業参観、学校行事、懇談会、PTA活動等、広く学校公開に努めている。	A→A 3.50	学校公開日を昨年と同様継続。学期に一回設定し保護者の都合に合わせて来校しやすいようにした。今後も実りある学校公開を実施していく。	A	A
	16 地域や関係機関との連携を深め、効果的で特色ある教育活動を行っている。	B→B 3.11	今年度は本校で「りんごコンサート」を実施し、健全育成と地域と協力した活動となった。ボランティア等、相互扶助的な取組の実現に努める。	A	A
学校関係者 評価委員 による意見	保護者間連絡システム「すぐーる」を活用しながら十分に情報発信がなされている。HPについては、誰も見ることができる媒体であるため、安全面と地域への情報発信との兼ね合いで難しい部分があることは理解できる。安全面に配慮しつつ、情報発信していることは評価できる。				
<p>1-1 「わかる・できる・楽しい授業」 A→A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート肯定的回答割合81.3(昨年度83.1 一昨年度88.4) 生徒アンケート肯定的回答割合90.4(昨年度92.3 一昨年度88.6) ・小集団での意見交流等の学び合いは大変効果的である。1人1台端末の利用については、学年により定着に差があり、本校の課題の一つと言える。保護者アンケートがここ3年で少しずつ下がってきていることを真摯に受け止めたい。 <p>2-3 道徳教育の充実 B→B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳については、担任を中心としながらも、学年教師でローテーションを組み、全内容項目で授業を行うことができた。 ・例年通り、夏季休業明けに全校道徳を実施した。今年度は「あすチャレ！ ジュニアアカデミー」からバラスポーツの講師をお招きし、共生について考えることができた。生徒にも大変好評で、意欲的な取組となった。 ・挨拶やルール指導を含む「豊かな心、人間関係づくり」の指導の工夫を継続していく。 ・道徳的な感性を育む交流や地域・社会に目を向け、多様な人とのふれあいを通じて豊かな社会性を育んでいく。 <p>2-6 学校行事等による自己肯定感、自尊感情を育む A→A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート肯定的回答割合91.5(昨年度92.6 一昨年度89.0) 生徒アンケート肯定的回答割合96.2(昨年度94.1 一昨年度91.6) ・昨年度に引き続き、コロナ禍前と同様の、すべての学校行事を予定通り行うことができた。 ・とくに生徒の肯定的意見が大変高く、心から行事を楽しむ姿が印象的であった。生徒のはじける笑顔が見られ、人の頑張りや努力を認め合う場面のある行事は大変教育的効果が高いと感じている。 <p>3-13 健康教育や食育を推進し、生活習慣の改善とともに体力の向上 A→A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の取組を厚生委員会が引継ぎ、生徒自身で食育に関わる意識が定着している。 ・道徳や技術・家庭科、保健体育等の授業を中心に、生徒の健康に対する意識を高めるよう努めた。 ・生徒会主催のスポーツレク等を通して、生徒の体力向上につながる取組を行っているが、2学期末は学級閉鎖の影響により、体力向上レクが中止になる等した。インフルエンザ等感染症が蔓延しやすく、昨年度と同様、学級閉鎖が相次いだことから、健康管理は本校の大きな課題の一つと言える。 <p>4-14 積極的な広報活動 A→A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保護者間連絡システム「すぐーる」が定着し、よりきめ細かな保護者への情報発信ができています。生徒、保護者ともに読む学校だよりの等々は従来どおりの紙もので発行し、保護者向けの部署は「すぐーる」で発信するなど、適切な情報発信を心がけていく。 ・学校ホームページの更新が昨年度より減ってしまった。次年度へ向け改善し、学校の様子を保護者や地域に公開していきたい。 <p>4-16 地域や関係機関との連携 B→B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫した教育の取組が定着し、今年度は年4回の交流会をパートナー校同士で行った。9年間の学びの見通しをもてるよう、今後も連携を密にし、CSへ向けた取組を充実させていく。 					